

ウルリム  
響

# 星 光

特定非営利活動法人

聖公会生野センター機関誌

第66号

2017年11月25日発行

題字：康秀峰

URL <http://www.nskk.org/province/ikuno>

E-mail: [nskkikuno@gmail.com](mailto:nskkikuno@gmail.com)

聖公会生野センター 検索

## 「尹東柱さまにささげる歌」

—— 生誕 100 年に寄せて

詩人・尹東柱（ユンドンジュ）は、1917年12月30日、中国吉林省明東に生まれた。日本による朝鮮植民地支配の時代である。彼は延禧（ヨニ）専門学校時代に多くの珠玉の作品を書いた。そのひとつは「星を数える夜」である。

季節が移りゆく空には／秋でいっぱい満ちています。

わたしはなんの憂いもなく／秋の中の星々をみな数えられそうです。……

星ひとつに 追憶と／星ひとつに

愛と／星ひとつに 寂しさと

星ひとつに 憧れと／星ひとつに

詩と／星ひとつに お母さん、お母さん、

……

自筆原稿を見ると、コクヨの400字詰め原稿用紙に万年筆で書かれたこの比較的長い詩は、次の言葉でいったん終わり、（一九四一・十一・五）という年月日が付されています。

この星の光が降る丘の上に／わたしの名まえの字を書いてみて、

土でおおってしまいました。

夜を明かして鳴く虫は／恥ずかしい名を悲しんでいるからです。

日本渡航のために「平沼東柱」と改名せざるを得ない。その名を彼は恥ずかしく思い、書いてから土で覆ってしまったのでしょうか。しかしこの後、彼は次のような言葉を書き足しました。

けれども冬が過ぎて わたしの星にも春が来れば

墓の上に青い芝草が萌え出るように

司祭 井田 泉

わたしの名まえの字がうずめられた丘の上にも誇らしく草が生い繁るでしょう。

まるで彼は自分を待ち受ける死を予感し、しかしそれが終わりではないことを知っていたかのようです。

翌1942年彼は日本に渡り、立教大学に、次いで同志社大学に学びますが、43年7月、京都下鴨署に逮捕され、治安維持法違反で懲役2年の判決を受け、45年2月16日、福岡刑務所で息を引き取りました。満27歳でした。日本語で詩を書くこと自体が、大日本帝国に対する反逆と見なされたのです。

やつれ果てた彼を最後に福岡刑務所に見舞ったのは、父の従兄弟・尹永春（ユンヨンチュン）でした。彼の子、つまり尹東柱にとって又従兄弟（またいとこ）にあたる尹亨柱（ユンヒョンジュ）は、父から尹東柱のことを繰り返し聞いていたでしょう。尹亨柱は、1983年4月に発売された「尹東柱詩朗誦集」に、自作の「尹東柱さまにささげる歌」を収めています。

あなたの天は どんな色だったので／あなたの風は どこへ吹いたので  
あなたの星は 何を語ったので／あなたの詩たちは このように 息をするのでしょうか……

夜通し 苦しんで 夜明けを迎え／恋しさに傷ついた風が ふるさとに 駆けていくとき



＝巻頭＝

あなたは遠い空 冷たい冷たい 空気の中で／あなたの息を 引き取らねばならなかったのですか…

死んでいく すべてのものを 愛したあなたは／むしろ 美しい魂の光であれ

木の葉に 起こる風にも 苦しんだあなたは／むしろ むしろ 美しいいのちの光であれ

尹東柱の詩と死が、そして決して消えることない光が、この中にはちりばめられて歌われています。

「共謀罪」「安保法制」などが強行成立させられ、平和憲法の根幹が脅かされている今日、尹東柱を記憶することは、この国が失いつつある尊いものを思い起こさせ、わたしたちを平和の道へと促します。

(奈良基督教会牧師 いた・いずみ)